



ムラサキシキブ 富樫信平画 1988.10.30 新潟県荒川町産

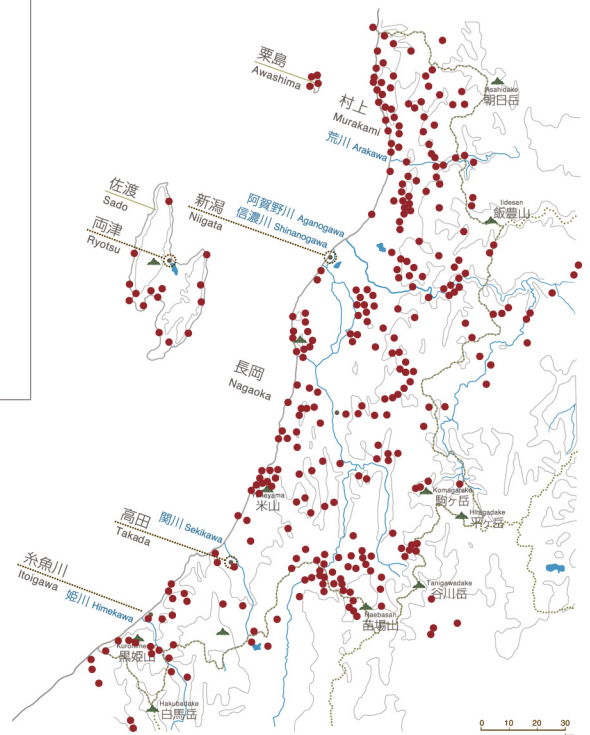
ムラサキシキブ

Callicarpa japonica

〈クマツヅラ科〉

北海道から沖縄まで広く分布する落葉低木。7月に薄紫色の小さな花を咲かせ、9月に鮮やかな紫色の実をつける。同じムラサキシキブ属のコムラサキがムラサキシキブと呼ばれることが多い。コムラサキとの見分け方は、実(花序)のつく位置や葉の鋸歯などがあるが、コムラサキに比べムラサキシキブは全体に大型で、実のつき方がまばらであるので区別は容易。

(永井明子)



新潟県内の分布(新潟県植物分布図集第二集1981より転載)



コムラサキシキブ



カワラナデシコ



オミナエン



フジバカマ



ヤエヤマブキ



キキョウ

企画展示

源氏物語と植物

9/10(水) - 11/9(日)



世界最古の長編小説である源氏物語が書かれたのは今から千年前の平安時代のことです。その当時は、現代の暮らしと比べて人と自然との調和がとれ、植物や自然が暮らしの中に密接に関わっていました。物語の中でも、四季折々の植物が心情や場景を豊かに表現する手段の一つとして登場しています。

恋愛小説とされる源氏物語ですが、今回の展示では様々な場面を演出している植物に焦点をあてて読み進めていきます。染料や香などに使われたり、歌や恋文などにも詠まれた植物を紹介し、植物が暮らしとのどのような関わりをもっていたのか、どのように利用されていたのかなど、物語を通して千年前の時代を振り返ります。

企画展示

クリスマス展

11/12(水) - 12/26(金)

クリスマスは、イエス・キリストの降誕を祝うキリスト教の祭日です。日本では、室町時代、現在の山口県において、宣教師が日本人信徒を招いてミサをおこなったのがクリスマスの最初といわれます。しかし、現在では、宗教色は薄くなり、季節的な催しとして毎年大きな盛り上がりを見せています。

植物園のクリスマス展も恒例となり、大きなツリーを見に多くの方々からお越しいただいています。日本でのクリスマスツリーは、1860年プロイセン公館で飾られたものが最初と言われます。現在日本では、モミの木が利用されますが、ヨーロッパでは主にドイツトウヒが使われます。このトウヒも、もともとは知恵の木(リンゴ)の代用だったとも言われています。

今年は「きらきらクリスマス」をテーマに高さ6mを超えるツリーと「昼と夜」をイメージした装飾を予定しています。これに加えて楽しい仕掛けも考えていますので、楽しくて「きらきら」したクリスマス展になる予定です。

また、クリスマス・イブには、ミニコンサートも予定しておりますので、是非ご来園ください。



平成18年度のクリスマス展の様子



カカオ (*Theobroma cacao*) の花



ジャボチカバ (*Myrciaria cauliflora*) の果実



ヒョウタンノキ (*Crescentia cujete*) の花と果実



園内ウォッチング



メキシカンブッシュセージ (*Salvia leucantha*)



ツワブキ (*Farfugium japonicum* cv.)



コルチカム (*Colchicum* 'The Giant')

かんせいか 幹生花

● 温室

花は、多くの植物では枝先や葉の付け根に咲きますが、熱帯植物ドームに植えられているカカオやヒョウタンノキでは花が太い枝や幹から直接咲いているように見えます。これは幹生花と呼ばれ、熱帯の樹木、なかでも大きい果実がつく種に多く見られます。通常、花は枝先や葉の付け根につく芽(花芽)の中に作られ、ハイビスカスやブーゲンビリアのように休眠せずに開花するか、またはサクラやツツジのように花芽が一度寒い冬を過ごした後に開花します(越冬芽)。しかし、幹生花では花芽がすぐに開かず、数年~数十年休眠した後に開きます。そのため、開花までの間に枝が太く成長し、花芽は樹皮の中に埋もれてしまっているため、何もない太い枝や幹に直接花が咲いているように見えるのです(潜伏芽)。

熱帯には他の地域に比べゾウや類人猿、イノシシなどの多種多様な大型の哺乳類が生息しています。幹生花をもつ植物の多くは、これらの動物に果実が食われることで種子を散布しているため、果実が大きくて低い位置に実り、それを支える幹も丈夫だと考えられています。(久原 泰雅)

秋に咲く草花

● 園地

当園では、これからの時期、ツワブキ、メキシカンブッシュセージ、ローズマリーなどが開花期をむかえます。ツワブキは日本および中国に分布する多年草で、鮮やかな黄色い花が駐車場付近や石垣見本園に彩をそえます。江戸時代から広く栽培され、園芸品種で葉に黄色い斑が入っているキフツワブキも当園にも植栽されています。

ハーブ園では、中南米原産のメキシカンブッシュセージが赤紫色の花を次々と咲かせています。それと、花はあまり目立ちませんが、ローズマリーも青紫色の小さな花をつけ始めます。

秋も深まり、木々が紅葉、落葉していくこの時期、少し寂しい感じのする園内ですが、木の実や紅葉などとともに、秋に咲く花を探し歩くのも良いのではないのでしょうか。(橋本 永)

NEWS 1

seedPod Kids

～はじめてのPodcast

あなたが作ったムービーを世界に発信しよう!～

8月24日(日)にアップルジャパン(株)と共催した教室に13名の小学生が参加してくれました。内容は、デジタルカメラとパソコンを使った食虫植物を紹介するipod用のミニ番組(Podcast)制作。5つのグループに別れ、食虫植物の説明とデジタルカメラでのムービーの使い方の説明を受けた後、撮影作業に入りました。撮影後は、研修室でアップルジャパン(株)の担当者からパソコンの操作方法をひとつひとつ教わりながら、映像編集をおこない、約1分の番組をつくり上げました。出来上がった子どもたちの力作は、観賞温室で貸し出しているseedPod(植物解説が入った携帯音楽プレーヤーiPod)や当園のホームページがご覧いただけます。

初の試みで、小学生にできるのかなという不安もありましたが、参加した小学生たちは、食虫植物の特徴を自分の言葉で説明し、機材もすんなり使いこなしていました。当園では、このように、植物を題材にした教育プログラムに力を入れ、教育の場としてもっと活用していきたいと考えています。(橋本 永)



食虫植物の説明を受ける子供たち



パソコン操作も難なくクリア



フローラルハート歴代ユニフォーム

パネル展示10年のあゆみ



熱帯植物ドーム1番乗りガジュマル搬入の様子(平成9年5月14日)

NEWS 2

植物園10周年回顧展

当園は、平成10年に開催された「第15回全国都市緑化にいがたフェア」の新津会場となり、その後「新潟県立植物園」として同年12月1日に正式開園しました。

まもなく満10歳を迎える当園では、10年間を振り返り、12月26日まで「10周年回顧展」を開催しています。これまでの取り組みをまとめたパネル展示「10年のあゆみ」、第2温室で行っている企画展示チラシのデザイン展、温室案内員「フローラルハート」の歴代ユニフォーム展示などを行っています。

県民の皆さんや展示協力をいただいた多くの方々のお陰で、10年を迎えることが出来ました。10年というと当時生まれたお子さんが小学4年生になる歳月です。ぜひご自身やご家族との思い出と照らし合わせながら、回顧展を観賞されてはいかがでしょうか。(大谷史絵)

NEWS 3

ワークショップ「植物園と市民で進める植物多様性保全」への参加

8月28日(木)に新宿御苑にて(社)日本植物園協会と環境省新宿御苑管理事務所の共催によるワークショップが平成20年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催され、当園から2名の職員と友の会の高橋務さん、ボランティアの白石正夫さんが参加しました。

これは日本植物園協会による植物種多様性保全拠点園事業の一環として行ったもので、「種子を用いた植物多様性保全」と「植物園と市民の保全ネットワーク構築に向けて」の2つのテーマについて話し合われました。種子を用いた植物多様性保全では、絶滅危惧種を生息域外で保全する際には、小さく長期間安定して保存できることから種子を用いることが大変効果的であり、またその方法と実例が紹介されました。次の植物園と市民の保全ネットワーク構築に向けてでは、6園から植物園と市民の協働による保全の実例が紹介され、これらの保全に参加した外部の方からの貴重な話も数多く聞くことができました。

ワークショップでは環境省自然環境局が2008年に作成した「絶滅危惧植物の系統保存管理マニュアル」と「絶滅危惧植物種子の収集・保存等に関するマニュアル」も配布されました。今後はこれらを生かし多くの外部からの協力を得ながら保全事業を進めたいと考えていますので、ご協力いただければと思います。

(久原泰雅)



市民も参加できる種子保存(岡山大学 榎本敬)



ワークショップでの市民保全団体との意見交換



「絶滅危惧植物の系統保存管理マニュアル」と「絶滅危惧植物種子の収集・保存等に関するマニュアル」(共に環境省自然環境局(2003)発行)



実習生企画展示「ハーブびより」



インターンシップ実習風景

NEWS 4

実習生の受け入れ

- 博物館実習:8月5日(火)~8月14日(木)
- インターンシップ実習:8月21日(木)~8月29日(金)

博物館実習では、第3温室の住宅内の展示を企画するところから、実際の展示作業までを行いました。この実習では、「植物」にまつわることを条件に、テーマを考えてもらいます。今回参加した2名は、ハーブの利用について紹介することに決め、1週間足らずという準備期間の中で展示物や解説パネルの作成に取り組んでいました。二人それぞれの得意分野をいかした良い展示になったと思います。

8月下旬には、新潟大学からインターンシップ実習を受け入れました。今年は植物の管理をはじめ、印刷物の発送や、次回の展示の準備などをお手伝いいただきました。途中、大雨の日や、暑い日もありましたが、精力的に仕事をこなしていました。短い期間で、植物園の仕事のうち限られたことしか経験してもらえませんでした、これからの進路に少しでも役立てていただければと思います。

(林 寛子)



ヒノキバヤドリギの生育状況 (撮影:木村彰)



ヒノキバヤドリギの花 (撮影:木村彰)

新潟の植物

ヒノキバヤドリギ *Korthalsella japonica*

ヤドリギ科に属する高さ10cm前後の半寄生植物で、関東地方以西、台湾、中国、ヒマラヤに分布します。葉は小さく退化していますが、茎が扁平で、全体がヒノキの葉のように見えることから和名がつけられました。主にツバキやヒサカキなどの常緑広葉樹に寄生し、時に宿主を枯らすこともあります。

新潟県ではこれまで分布が確認されていませんでしたが、今年7月23日の新潟日報に県内で分布していることが載せられました。同じ科に属するヤドリギ (*Viscum album* ssp. *coloratum*) は、果実を鳥がついばみ遠くまで種子が散布されることが知られているため、これまで生育していなかった場所に突然確認されることも考えられますが、ヒノキバヤドリギは果実が熟すと弾けて種子を散布するため、これまで生育していなかった遠く離れた場所で確認されることはあまり考えられません。新聞にも記載されていたとおり、おそらく種子のついた苗木などが西日本から持ち込まれ、繁殖したものだと考えられます。

近年、西日本に生息していたツマグロヒョウモンという蝶の仲間が県内で確認されるようになり、温暖化の影響が懸念されていますが、この植物も温暖化の影響で繁殖できるようになったのかもしれませんが。今後はこのような植物の分布の変化などにも目を向け、私たちがどのように環境に配慮していくかを考える必要があるかもしれません。(久原泰雅)

新潟の天然記念物

おっほうじ 胎内市 乙宝寺のオオバガシ (アカガシ)

乙宝寺の仁王門から大日堂の手前を左に折れ、方丈殿へ向かう門をくぐると、斜めに傾いた幹の直径が1m以上あると思われるオオバガシの大木が目の前に現れます。このオオバガシは、弘法大師が乙宝寺に立ち寄り、食事をとったときに使ったカシの箸を地面に挿したところ根付いたとの伝説があり「弘法大師お箸の木」と呼ばれています。

木の周りを一周してみようと木の反対側にまわると、驚いたことに木の幹の半分以上はなく、ほとんど皮だけで生きているような状態でした。解説板には、明治26年の火災の際に焼けてしまったことが記されていました。生きている部分が少なくても、枝を四方に伸ばし、葉を広げている姿からは生命の力強さが感じられます。

乙宝寺を訪れた帰り道、昭和39年に県の天然記念物に指定された胎内市富岡地区の白山神社のアベマキも調査しようとして現地に向かったところ、その姿が見えませんでした。アベマキの生育が著しく衰え、倒れる恐れがあるため、やむを得ず伐採したとのことでした。

乙宝寺のオオバガシも痛々しい姿をしています。このまま少しでも長く生育し続けて欲しいと胎内市をあとにしました。

(橋本永)



宝寺のオオバガシ推定樹齢400年。昭和48年に胎内市(当時中条町)の天然記念物に指定された。



幹の半分以上が無くなり痛々しい。



オオバガシの実
新潟県が日本海側の分布の北限とされる。



富岡のアベマキ
現在は伐採され切り株のみの。

友の会 通信



「チューリップ・鬱金香」と「小山重 小伝」

本会会員の木村敬助先生から著書30冊が寄贈されました

チューリップ研究家で「チューリップ・鬱金香(ウッコニコウ)―歩みと育てた人たち―」の著者でもある木村先生から、最近出版された「小山重 小伝 わが国チューリップ栽培の先覚者」30冊が寄贈されました。小山氏は、わが国初のチューリップ球根の商業生産に大きな貢献がありましたが、これまで功績を評価されることがほとんどありませんでした。その小山氏の足跡をたどった労作ですので会員の皆様にご一読をお勧めします。ご購入に関しては植物園にお問合せください。

春に佐渡への植物観察旅行と夏に湯沢への植物観察会を行い、多くの方にご参加いただきました。

佐渡植物観察会

6月21日、22日の一泊二日で佐渡在住の中川清太郎さんと石澤会長の案内で佐渡への植物観察会を行いました。

一日目はドンデン山荘から山頂のドンデン池を巡った後、佐渡に



ドンデン山のシウリザクラ(左)とハクサンシャクナゲ(右)

残されている多くの巨樹を訪ねて回りました。ドンデン山では、シウリザクラやヤマトグサなど県内では佐渡以外ではほとんど見ることのできない植物や全国的にも珍しいコハマナス(ハマナスとノイバラの自然交雑種)を観察することができた他、国指定天然記念物の「羽吉の大クワ」や、「真法院の苔梅」も見学しました。

二日目は牛尾神社の「安産杉」や加茂湖周辺のオオアカウキクサやミヤコイバラを観察したのち、素浜海岸から小木海岸を巡った後、長谷寺(ちょうこくじ)を訪れました。素浜海岸では、満開のトビシマカンゾウの群落を観察し、また寄生植物のハマウツボの特徴などについて石澤会長から話をお聞きました。長谷寺では、貴重な仏像などの収蔵品についてご住職からご説明いただき、見事なコウヤマキや樹齢1000年を越える3本杉を見ることもできました。



石澤会長とコハマナス



長谷寺のコウヤマキの巨木



満開のトビシマカンゾウと共に(小木海岸にて)

湯沢植物観察会

8月23日、24日の一泊二日で湯沢町での植物観察会を行いました。一日目は巻機山の麓にあるぬくび沢での植物観察を行った後、植物画家の外山康雄先生の「野の花館」を訪れました。ぬくび沢では、サワグルミなどを中心とする溪流に生息する植物を観察した後、溪谷で昼食をとりました。野の花館では、等寸大に描かれた新潟の植物の水彩画を



巻機山ぬくび沢のカリガネソウ

観賞し、先生から様々なお話をお聞きました。二日目はあいにくの雨だったため、湯之谷溪谷を車道沿いに植物を観察しながら下った後、群馬県に入り、法師温泉周辺の観察を行いました。群馬県に入ると新潟県ではあまり見られないコアジサイの群落や、自生のないツルガシワが見られました。ヒルが多く、帰りのバスでは大変な騒ぎになってしまいました。



和田小屋での夜の勉強会



土砂降りの中で

これからは、10周年記念フェスティバルへの参加(10月4日(土)~5日(日)、キノコ観察会(10月25日(土))、秋山郷への植物観察会(10月18日(土)~19日(日))、クリスマス交流会(12月23日(日))を予定していますので、是非ご参加下さい。

新潟県立植物園 友の会 会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、植物園までお問い合わせください。

会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園より、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費※

- 個人会員..... 2,000円
- ファミリー会員..... 2,500円
(同居の家族は何人でもご利用できます)
- 賛助会員 一口..... 10,000円

※4月より翌年3月まで

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 11月9日(日)まで「源氏物語と植物」
- 11月12日(水)～12月26日(金)「クリスマス展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 9月10日(水)～9月28日(日)「押し花の仲間達」
出展:森のアトリエ
- 9月30日(火)～10月19日(日)「切手に見る有用樹木」
出展:佐藤武
- 10月21日(火)～11月9日(日)「花と樹」
出展:小島伽藍
- 11月12日(水)～11月24日(月・祝)「ハーブクラフトアラカルト」
出展:ジャパンハーブソサエティ
- 11月26日(水)～12月14日(日)「花々で描くクリスマス展」
出展:桂田アッセンデルフトフローラルアート
- 12月16日(火)～12月26日(金)「Natural ChristmasⅢ」
出展:マミフラワーデザインスクール

観賞温室第3室 特別展示

- 12月26日(金)まで「10周年回顧展」
- 11月5日(水)～12月7日(日)「絶滅危惧植物展②」
- 12月9日(火)～12月26日(金)「クリスマス装飾」

特別展示	●11月2日(土)・3日(日)「秋のいけばな展」 新津華道連盟・県立植物園共催
------	--

教室

花と緑の教室 会場:花と緑の情報センター
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 10月12日(日) 13:30～15:00 ●「多肉植物の寄せ植え」
講師:石川昇(新潟グリーンプラザ フレンズ) 定員:20名 参加費:1,000円
- 10月16日(木) 10:00～11:30 ●「雑草観察会③」
講師:田中良明(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:無料
- 10月19日(日) 10:00～11:30 ●「大文字草を使った寄せ植え」
講師:首藤洋(有)石塚萬花園) 定員:20名 参加費:500円
会場が異なりますのでご注意ください。(集合場所:白根中央浄化センター駐車場)
- 10月25日(土) 10:00～11:30 ●「植物基礎講座 球根の寄せ植え」
講師:林寛子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:1,000円
- 10月26日(日) 10:00～11:30 ●「バラの育て方③春に向けての管理」
講師:佐藤七郎(新潟ばら会) 定員:30名 参加費:無料
- 11月13日(木) 10:00～11:30 ●「雑草観察会④」
講師:田中良明(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:無料
- 11月16日(日) 10:00～11:30 ●「植物基礎講座 冬囲い」
講師:田中良明(県立植物園職員) 定員:20人 参加:無料
- 12月6日(土) 10:00～11:30 ●「季節の寄せ植えづくり」
講師:林寛子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:1,000円
- 12月11日(木) 10:00～11:30 ●「季節の寄せ植えづくり」
講師:永井明子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:1,000円
- 12月14日(日) 10:00～11:30 ●「ミニ門松をつくろう」
講師:片山芳宣(県立植物園相談員) 定員:20名 参加費:500円

体験教室 会場:花と緑の情報センター 10:00～15:00
当日随時受付 ※受講料は変更となる場合があります。

- 9月6日(土)・7日(日) ●「ちぎり絵・万華鏡作り」
受講料:650円～1500円 中村澄子と紙ちぎり絵教室
- 11月16日(日) ●「プリザーブドフラワーでクリスマスリースとフラワーケーキ作り」
受講料:2,000円～2,500円 Bloem Klasse

イベント

県立植物園10周年記念フェスティバル

- 10月4日(土)・5日(日)
- ・100円入館デー
- ・花のカルチャープラザ体験教室
- ・柳生真吾「緑花講演会」(5日)
- ・園芸相談コーナー
- ・記念植樹(5日)
- ・植物販売
- ・バックヤードツアー
- ・食のテント

クリスマス開館延長

- 12月20日(土)・21日(日)・23日(火・祝)
- 18:30閉館(最終入館18:00)
- 12月23日(火・祝)「クリスマスミニコンサート」

特別講演会

「源氏物語千年紀と私達 ～紫式部のメッセージを読み解く楽しみ～」

- 10月25日(土) 13:30～15:30 ※要申込
- 講師:藤田秀雄(NHK新潟文化センター講師) 定員:80名 参加費:500円

図書のご案内 ※温室発券カウンターにて販売しています。



「里山の植物」
2,000円
新潟丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」
1,200円
新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しまっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!

- ①10:40～ ②14:40～ (土・日・祝日は13:40からも実施)
- ※当日温室発券カウンターにて受付(定員制)

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の発券カウンターでプレーヤーを貸し出していますので、ぜひ一度お試しください。(無料・身分証明書必要)

花と緑の相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。

- ・相談受付日:毎週水曜、日曜
- ・ご相談は直接相談コーナー(観賞温室室内無料エリア)へ。
- ・電話でも受け付けています。専用電話0250-24-6437

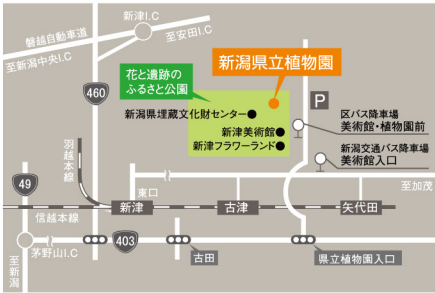
●観賞温室利用案内
開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー (●休館日・12月27日～年末休館)

10							11							12						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
●	●	●	1	2	3	4	●	●	●	●	●	●	1	●	1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27
26	27	28	29	30	31	●	23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31	●	●	●

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R/信越線古津駅から徒歩約20分
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野潟公園事務所、紫雲寺記念公園事務所、県立植物園です。

